

平成 30 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	スマリンケアライフ株式会社	ホーム名	ドマーニ神戸	ID	3012
	評価機関	京都府認知症グループホーム協議会	評価日	H30.11.21	

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.2.1	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	A	A
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	B	B
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	A	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

## 評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
1-5-2	毎月行政書士法人による相談会を開催するとともに、高齢者サポートネットワークとの連携により成年後見制度の活用支援はもとより、身元引受人のない方へも専門家を紹介し、入居できるシステムを構築している。また成年後見制度利用者リストを作成し、後見制度等を利用している入居者を把握することで、必要な入居者に対し確定申告個別相談会や様々な行政への届出等に関して対応できる体制を整備し、最後まで安心して暮らすことができるよう支援している。
2-2-2	行政書士や医師等から高齢者住宅等の選び方や終活等のミニ講座を受講することのできる定例見学会を開催している。また、予約なしでの見学も受け入れ、入居希望者には2泊3日まで体験入居を実施している。居室は今年度運営法人が変わったことにより、その法人ノウハウを生かし木の内装と光を吸収する間接照明により、温もりと安らぎを演出する快適な寝室やリビングにリノベーションした。また転倒による骨折にも留意して衝撃吸収性を持つ床材を使用し、日本人ならではの「和」を演出することで快適で安全な居住空間を完成させている。居室のリフォームに合わせて体験入居の居室もリノベーションを実施、住み心地を確認した上で入居決定できるような働きかけを行っている。
4-2-2	年間イベントスケジュールに基づき四季折々のイベントを提供するとともに、毎週定期的に絵手紙、うたごえ喫茶、ドマーニ劇場、書道教室、淡彩画教室等を開催するなど、入居者が趣味や趣向に合わせて自由に参加する機会を提供している。また年2回の日帰りバス旅行や介護認定を受けている方も利用できるランチツアーなど外出の支援にも力を注いでいる。実施された行事については毎月1回開催されるアクティビティ委員会にて開催概要、収支、良かった点、反省点を評価し、対策を検討することで次の行事に生かせるよう取り組んでいる。さらにアンケートを実施し、今年度新たに「ヨガ教室」を開催することになるなど入居者の要望を取り入れる仕組みがあり、日々の生活に変化と生きがいをもたらしている。
6-1-2	入社時に法人独自の「接遇のポイント～おもてなしの心～」の冊子を配布し、接遇マナー向上研修を年2回実施し全社員が受講できるよう取り組んでいる。入居年数が長い入居者が多くなっている状況と新しい入居者に対する接遇にも配慮が必要な状況を踏まえ、今年度新たに外部の講師を招いてサービスの向上に取り組んでいる。知識だけでなくとどまらず実態に即した角度からのアプローチを取り入れたことにより、職員が実際の支援の中で生かせる学びにつながっている。
6-3-2	認知症の研修を年4回開催し、認知症についての理解を深めている。また認知症の対応が困難な方に対しては、ケアマネジャーが中心となってひもときシートを活用して生活歴等を把握した上で困難事例検討会にて多職種にて検討をしている。またチーム会議を月1回開催しパーソンセンタードケアの観点から対応方法などを検討している。さらに精神科の往診が月3回の内、2回が認知症の方対象となっており、往診日前の2週間の状況を専用の24時間の記録用紙に記載して情報を医師に伝達するとともに、医師からの指示はケアマネジャーから全職員に電子媒体で周知している。全職員は更新された情報をいつでもタイムリーに確認できるようにシステムを整備し、情報を共有することで質の高いチームケアの実践に取り組んでいる。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
6-2-9	身体拘束廃止に関する指針を定め、入居者の尊厳と主体性を尊重した生活の維持に努めている。入社時はもとより全社員対象にイーラーニング等を活用して年2回研修を実施し、入居者の人権を守ることについての理解を深めるとともに、身体拘束廃止に向けた意識の向上を図っている。また虐待及び身体拘束廃止委員会を毎月1回実施し、入居者の様々な精神的、身体的状況に沿った対応が適切であるかを検証するなど多職種が連携した取り組みに力を注いでいることが確認できた。安全確保が優先される中で、入居者や家族等の多様なニーズに即応する支援を模索し信頼関係を構築することで、さらなる質の高い事業所を目指されることを期待する。